

「最初に避難した場所は寒くて、長くはいられなかった」

市議会災害対策特別委員会が直江津海岸部の町内会長などと津波対策で意見交換

災害対策特別委員会は8日、直江津のレインボーセンターにて「地震・津波対策に関する意見交換会」を開催しました。津波の心配のある町内会から町内会長さん、防災士など20数人から参加していただきました。

会では冒頭、委員長である私から、「能登半島地震から1年半が過ぎた。今ごろになって何をするのかという声もいただいたが、議会の委員会として、被災された地域、あるいはその可能性のある地域のみなさんの生の声をお聴きし、議会としての提案をまとめていきたいと思っている。すでに行政のみなさんが町内会などと意見交換などをやられ、検証結果も昨年12月にまとめられているが、現時点で皆さんの声を聴く中で議会として整理していきたい」と挨拶しました。

続いて江口副委員長が、スライドを上映し、津波の様子を再確認してもらった後、事前にお願したアンケート結果などについて説明しました。そこでは、「車で避難が多く、ハザードマップを見ていない人が多かった」「町内会で役割分担していたが、役に立たなかった」

「てんでんこに避難したので、住民確認が遅れた」などの声を紹介しました。

その後は4つのグループに分かれての意見交換会です。これには傍聴の方からも参加していただきました。私はAグループの進行係を務めました。意見交換の中では、「1次避難場所は道路上だった。寒くて長くはいられない状況だったが、いつのタイミングで自宅へ戻っていいか判断がむずかしかった」「ハザードマップで避難すべき地域と避難しない地域との区別がされているといっても、街宣車で逃げろ、逃げろと言われればみんな逃げる」「高台に逃げたが、問題はどのタイミングで次の場所に行くかだ」「市ではすべて自主防災組織を通して。ハザードマップの徹底についても地元でやれとなっている」「要支援者は表面上、出てこない人もいる。誰が救助するか。（助ける側としては）この人はこういう人だと分かっていなければダメだ」「まず自分、家族、そして隣だ。共助し



かない」「町内会に入りたくない人もいて、その家の情報が何もないケースもある。アパートの実態把握できていない」「防災スピーカーがよく聞こえなかった」などの声が次々と出されました。

今回の意見交換会で出された生の声は委員会で検討し、今後の対策に生かしていきます。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



【サワグルミ】（再掲）。クルミ科の落葉高木。漢字で「沢胡桃」と書きます。初めてこの花を見たのは数年前、大島区板山の「杉」（屋号）の家の前の沢です。花らしきものが垂れ下がっていて、調べました。花期は5月頃。花は薄緑色です。花言葉は「至福の時」。今回は大島区の田麦、角間で見つけ、撮影しました。



三和区のコウノトリのヒナも足環装着

5月下旬に上越市三和区内で誕生したコウノトリのヒナの足環が9日、装着されました。吉川区と同じように、コウノトリの郷公園などのスタッフが作業にあたりました。9日現在、ヒナの体重は3.35kg、全長は

77.5cm。これだけあれば、大丈夫とのことでした。ヒナは1羽で、個体番号はJ0944となりました。性別はDNA検査待ちです。

左のイラストは足環装着作業。右の写真は装着後（11時18分）、巣に戻った親とヒナ。

はしづめ法一の活動レポート

No.2211 2025.7.13

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八五八回

Vサイン

百六歳まで生きた「いんきょ」(屋号)のおばあちゃんの歳を超えることが目標だった「ほしほ」(屋号)のおばあちゃんが亡くなって半年が経ちました。

三〇度超えの猛烈に暑い日、久しぶりに大島区田麦の「ほしほ」を訪ねると、ツネコさんから、「とちやもいるすけ入ってくんない」と誘われました。「ひんねしてなるすけ、わりこて」と言ったのですが、正直言って、涼みたい気持ちもありました。ツネコさんの「起きてもいい時間だね」という言葉で車のスイッチを止めに行くと、もうケンイチさんが出てきて、駐車場の案内までしてくださいました。

茶の間にいらせてもらって、亡くなったおばあちゃん、シサオさんが座っていない場所には、ケンイチさんがおられましたが、ケンイチさんはシサオさん譲りの顔です。おばあちゃんが生きておられたときと変わらない雰囲気がありました。

お茶をご馳走になり、まず話題になったのは県立松代病院の話です。県病院局は来年の春から入院をやめ、昼間だけの診療所にするという方針を出しています。ケンイチさんは、「おらたりんしょにとつては、大事な病院だこて。おらちのバチャは昨年二度も入院したが」と言っていて、いろいろ話をしてくださいました。

そのなかで一番注目したのはシサオさんの看取りをするために退院させたという話です。これは私の母の場合とまったく同じでしたので、その時の話に引き付けられました。びっくりしたのは、百歳をとくに超えているのに、死が近くなってもちゃんと会話ができたということです。ツネコさんによれば、「さすがに口数は少なくなりましたが、しゃべらんだ」ということでした。

病院から自宅に戻って亡くなるまで十二日間だったと言われましたが、私の母は二十三日でした。ただ、母の場合は話はま

たくできませんでしたので、うらやましかったです。シサオさんの場合、長年住んでいた自宅で家族と言葉を交わすことができ、最愛の人たちに囲まれて亡くなったということでした。

松代病院の話から竹平にあった内山医院の話になりました。私が竹平の母の実家で生まれたとき、死ぬか生きるかといった状態で、医師の内山先生(故人)には大変お世話になったとのことでした。ですから、先生は私にとっては命の恩人です。先生のことはほとんど覚えていませんが、私をとりあげてくださった助産師のフミコさん(故人)は十年ほど前にわが家に来てくださったことがあり、よく覚えています。フミコさんは藤尾の出身だとか、蒲川原の東俣の久代さん(故人)は姪っ子にあたるなど話などんどん広がりました。身近な医療機関ならではの思い出、たくさんありますね。

今回のお茶飲みには、ケンイチさん、ツネコさん夫婦だけでなく、娘さんも加わりました。どういうきっかけから農具の話になったのか忘れましたが、箕(み)を使って大豆や小豆のごみを空中に飛ばして片づける話や重箱を使って大豆などを転がして選別する話などにずっとついてきてくれました。ひと世代違うのに、話をしっかり聞いてくれて、うれしかったです。

四十分ほどお茶をご馳走になり、おいとまするとき、仏壇の前にあるシサオさんの遺影がちらっと見えました。そのタイミングで、ケンイチさんが「おらバチャ、＜サイン＞してる」と言いました。私は、「そうだ、バチャのお参りしねきゃ」と言っていて、仏壇の前に行くと、シサオさんはとてもいい笑顔でした。これまで遺影はたくさん見てきましたが、笑顔の＜サイン＞の遺影は初めてです。「いんきょ」のおばあちゃんの歳には一年ほど足りませんでした。本人は満足されていたのだらうと思いました。

市長の失言、全国ニュースに 市議会は14日に各派代表者会議開催へ

何ということでしょう。昨年、「もう一回、失言したら終わりだ」と多くの人から言われていた中川市長が、自分の出身地である兵庫県三田市の米について「まずい」と言ったということです。自分の故郷はほめることがあっても、それをけなすとは情けない。この失言は全国ニュースになり、三田市の市長からは抗議文が寄せられたといえます。当然です。

この事態を受けて9日、市長は急遽、記者会見をしたものの、辞職の「辞」の字もありませんでした。市議会は昨年、市長に辞職勧告決議をしています。ここまで来たら、深く辞職すべきです。

市議会では14日、各派代表者会議を開催して、今回の問題について対応を協議する予定です。その結果は続報します。

消費税軽減に大きな関心

国政では、いま、国民の生活を守るため議論が活発化しています。

最大のテーマは物価高です。世論調査では、交付金一回ぼっきりでなく、すべての商品、サービスにかかる消費税を軽減することが求められています。ぜひ実現させたいものです。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月2日(水)	7月9日(水)
上越消防署	0.057	0.057
上越南消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.043	0.057
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.053	0.053